

## かんきつ園防風垣防除によるチャノキイロアザミウマの被害軽減効果

[要約] かんきつ園の防風垣であるイヌマキを5月と7月の2回の薬剤散布によってかんきつ園への薬剤散布なしで、チャノキイロアザミウマの果実被害を許容水準以下に抑えることができる。

長崎県果樹試験場・病害虫科

専門

作物虫害

対象

果樹類

分類

指導

平成4年度長崎県果樹試験場業務報告

### [背景・ねらい]

チャノキイロアザミウマはミカンハダニと並んで、かんきつの重要害虫で、この被害を防ぐために、年間4～5回の薬剤散布が行われている。使用される薬剤は合成ピレスロイド剤や有機リン剤が主体でミカンハダニのリサーチェンスを助長したり、有用天敵を併殺するものがおおく、潜在害虫の多発による薬剤散布回数の増加などカンキツの害虫管理上問題が多い。チャノキイロアザミウマは多食性で、かんきつを加害する個体は周辺の好適な寄主植物で増殖して飛来したものがほとんどであるため、西南暖地で飛来源として最も重要な防風垣のイヌマキへの薬剤散布だけで、被害を回避できるかどうか検討した。

### [成果の内容・特徴]

- ①チャノキイロアザミウマはカンキツよりむしろイヌマキを選好し、その新しょうでの増殖力はかんきつの3倍である。かんきつの果実を選択する個体はさらに少ない。
- ②かんきつ果実への寄生はイヌマキの新しょうの発生が少なくなる6月中下旬と8月下旬～9月上旬に高まり、その飛来源はイヌマキの新しょうである。
- ③かんきつ果実への飛来源となる5月中旬と7月下旬の2回、イヌマキへの合成ピレスロイド剤の散布によって、かんきつ園への薬剤散布なしで、果実被害を許容水準以下に抑える。

### [成果の活用面・留意点]

- ①西南暖地でイヌマキと同様の効果が期待できる防風樹としてサンゴジュがある。
- ②イヌマキで常にチャノキイロアザミウマが多発するとは限らないので、飛来源が防風垣であることを確認しないと効果は期待できない。黄色粘着トラップなどを利用して要防除密度に達する可能性があることを確認し、過剰防除にならないようにする。
- ③ネーブルオレンジなどオレンジ系やマーコットなどの品種では新しょうでの増加率が高いので、周辺防除だけでは効果があがらないことがある。

[具体的データ]

表1 チャノキイロアザミウマ成虫の寄主選択性

調査年次	調査地点数	寄生成虫数(ノ20個体)		
		イヌマキ新しょう	かんきつ新しょう	かんきつ果実
1986	21	35.4	11.7	
1987	17	134.6		14.4

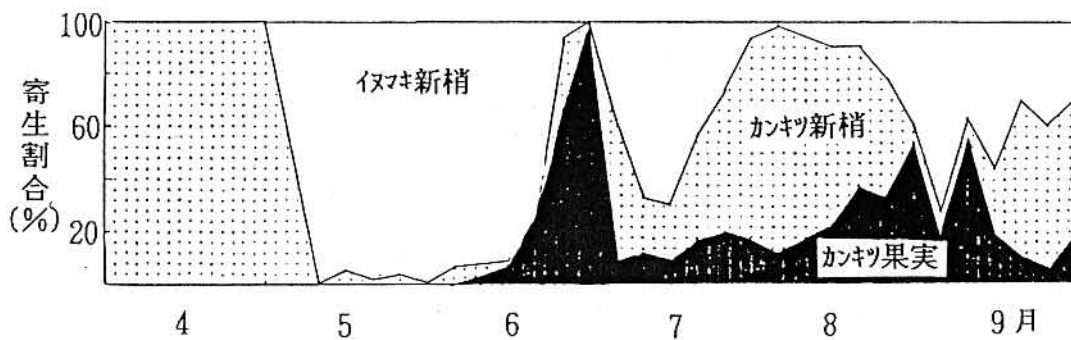


図1 イヌマキの防風垣のあるかんきつ園におけるかんきつ果実への寄生割合

表2 イヌマキへの薬剤散布による温州みかんの果実被害軽減効果

処 理 区	果 実 被 害			
	果 梗 部		果 頂 部	
	被害果率	被害度	被害果率	被害度
イヌマキ防除区 <sup>a</sup>	14.0	2.3	18.0	3.8
無 処 理 区	26.5	6.9	44.0	10.8

<sup>a</sup> 5月21日と7月26日にアディオソ乳剤3,000倍を散布

[その他]

研究課題名：果樹の生態系活用による害虫の総合管理技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成4年度(平成2～8年)

研究担当者：大久保宣雄

既発表論文等：なし

残された問題点：なし